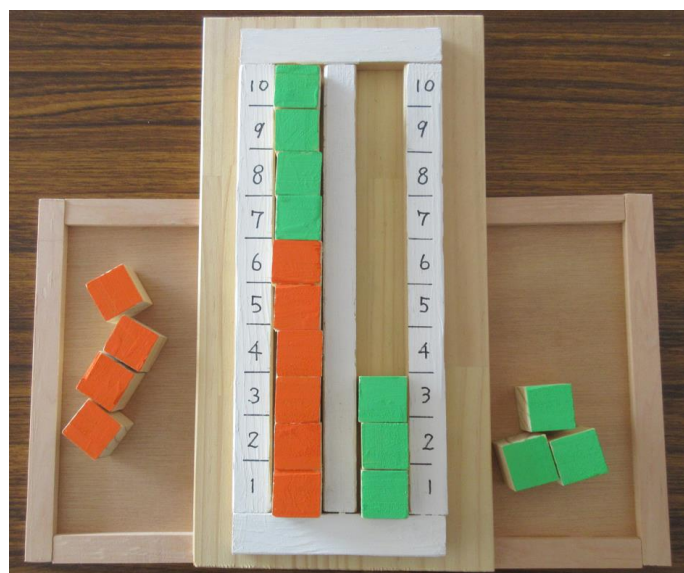
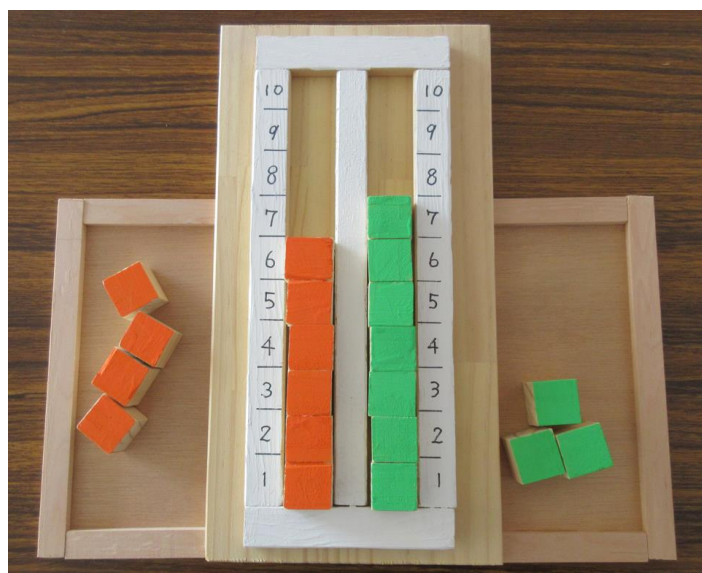


小学部

中学部

| | | | |
|-----|--------------------------|---------------|-----------------------|
| 教具名 | 足し算ブロック | 対象授業等 (内容) | 数学 |
| | | 学習指導要領 段階 | [知識及び技能] (小3段階Aイ(ア)㊦) |
| | | 太田ステージ | Ⅲ-2 |
| ねらい | 繰り上がりのある、一位数と一位数の足し算ができる | | |

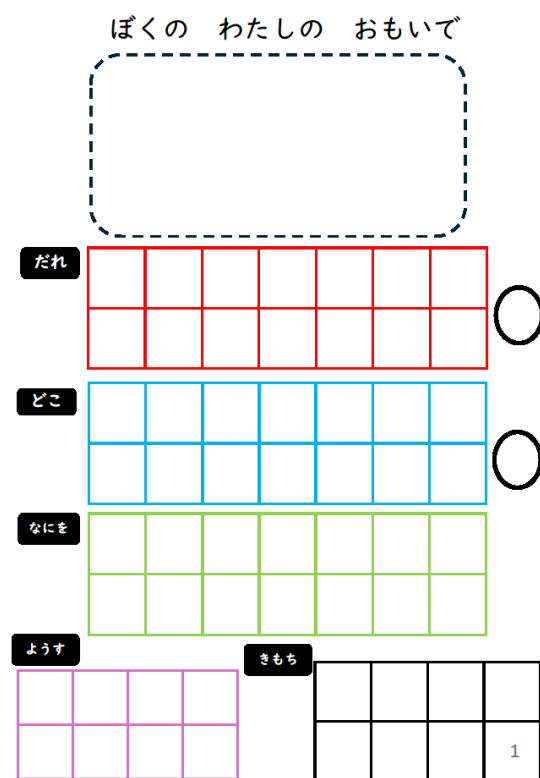


| | |
|---------|--|
| 使用方法 | <p>6 + 7の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左枠に6個のブロックを入れ、右枠に7個のブロックを入れる。 ・右枠のブロック4個を左枠に入れて、左枠を10個にする。 ・答えHは、左枠の10個と右枠の3個で、13となる。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・合板板 |
| 工夫点及び効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・コマを持ちやすい大きさにした。 ・色を付けた。このことで、○と□で10のまとまりになることが分かりやすい。 |

小学部

中学部

| | | | |
|-----|---|------------|---|
| 教具名 | 文をつくろう 「言葉カード」 | 対象授業等 (内容) | 国語 |
| | | 学習指導要領 段階 | ・小3段階 知識・技能 ウ(イ) ・小3段階 思判表 B書くこと ウ |
| | | 太田ステージ | Ⅲ - 2 |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の表現を参考にしたり、絵カードを見たりすることで、短い文で伝えたいことを表現することができる。 ・写真や動画を手がかりにして単語カードを選び、適切な助詞を使って主語と述語を用いた文を作ることができる。 | | |

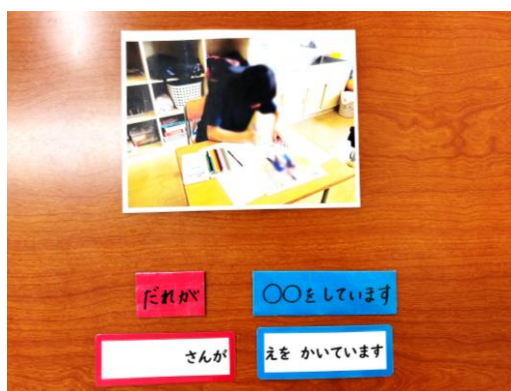


| | |
|-----------------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験した活動を写真や、教員や友達の活動している場面をビデオを見て、それに合った言葉カードを選んだり伝えたりして、ワークシートに記入していく。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・磁石 |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・だれ (赤) どこで (水色) なにを (緑色) のカードに分け、それと同じ色分けのワークシートを用意し、書きたいことを自分で選択して取り組めるようにした。 ・段階的に「ようす」の言葉を取り入れ、文を詳しくすることができる。 ・写真を見ながら内容に沿って文を作り、文と写真の該当する箇所を指差して教師に伝えたり、合う言葉を考え記入することができた。 |

小学部

中学部

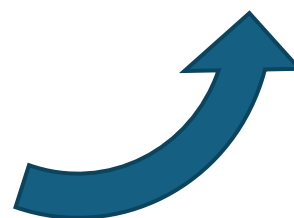
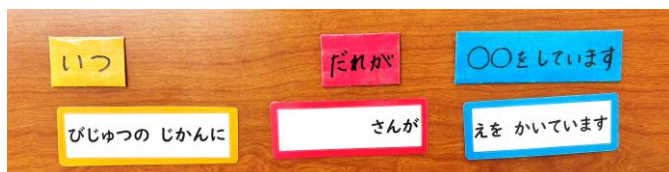
| | | | |
|-----|--------------------|---------------|-------------------------------|
| 教具名 | 文づくりカード | 対象授業等 (内容) | 国語 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小3段階 思考力、表現力、 判断力等 B書くこと ウ |
| | | 太田ステージ | Ⅲ-2後期 |
| ねらい | 修飾語を用いて文を書くことができる。 | | |



※述語「〇〇をしています」の形式について、本生徒が「なにを」「どうした」と分けることに抵抗があるため、このようにした。
※助詞のみを選ぶことは難しいため、カードに含めた。

しゃんを せつめいしよう

()が ()にち ()



| | |
|-----------------|--|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員とやり取りしながらカードを並べ、文を完成させる。完成した文をワークシートに書く。 ・ 「〇〇さんが〇〇しています」という基本の文から始め、「いつ」「どこで」「どんなふうに」の項目の修飾語を足していく。 ・ 修飾語は選択肢から選ぶか、自分で考えてペンで書く。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙、紙、ラミネート |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の様子の写真を用いることで、生徒の興味をもたせ、言葉が出やすくなるようにした。 ・ 最終的には、「いつ」「どこで」等の項目カードとワークシートのみを使い、文の全ての語句を自分で考え、文が書けるようになることを目指す。 |

小学部

中学部

| | | | |
|-----|----------------------------|---------------|---------------------|
| 教具名 | 買い物名人シート | 対象授業等 (内容) | 数字 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小3 A数と計算 ア (イ) ㊦ |
| | | 太田ステージ | Ⅲ-2 |
| ねらい | 買いたい品物の値段を見て、硬貨で支払うことができる。 | | |

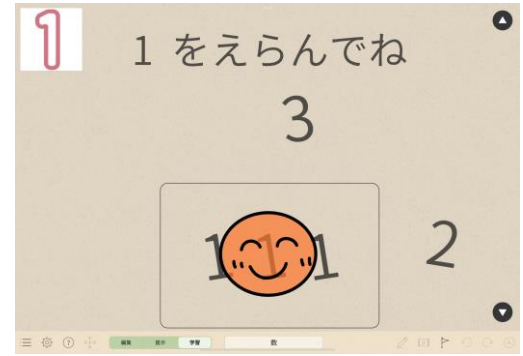


| | |
|-----------------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・買いたいものを選び、値段を見て、位ごとに数字を書き込む。 ・数字を見て、同じ枚数・同じ金種の硬貨を置く。 ・支払いに必要な硬貨と枚数がわかったら、買い物名人！ |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード、ホワイトボードマーカー ・ラミネートされたお金、チラシで作った買い物カード ・マグネット |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・「たかちゃん先生の特別支援教育学習プリント」を参考にしている。 ・ホワイトボードを使い、マグネットでお金を貼れるようにした。 ・校外学習や修学旅行で買い物がスムーズに行えるための学習。 |

小学部

中学部

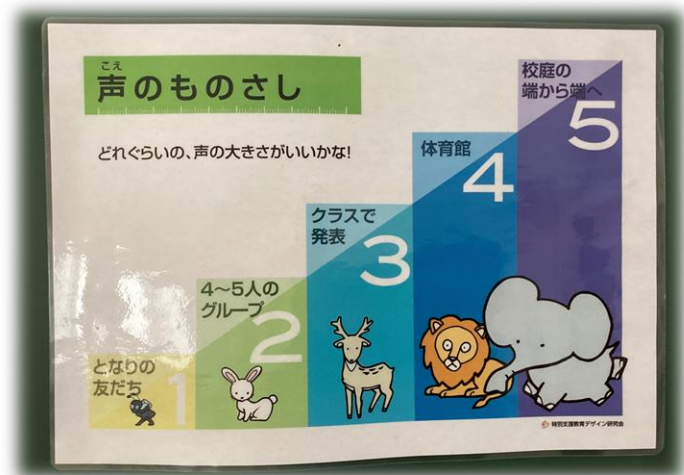
| | | | |
|-----|-----------------------|---------------|---------------------|
| 教具名 | 数字マッチング | 対象授業等 (内容) | 数学 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小2段階 A数と計算 (ア) ㊦ |
| | | 太田ステージ | I |
| ねらい | 数の概念や数え方を楽しく学ぶことができる。 | | |



| | |
|-----------------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面に書かれた言葉を教員が読み上げ、その意味表した数字やイラストを下の□の枠に入れてマッチングさせる。 ・絵カードを枠に入れた後に、タッチして正誤を確認する。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad ・ フィンガーボードプロ |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 数字の学習アプリを参考に作成 ・ ゲーム感覚で楽しみながら学習をすることで、数字や数え方などを学習できる。 |

中学部

| | | |
|------------------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 教具名 Hello Pika (ハロピカ) | 対象授業等 (内容) | 国語 |
| | 学習指導要領 段階 | 小学部3段階 A聞く こと話すこと オ |
| | 太田ステージ | III-2 |
| ねらい | 相手に伝わるように、発音や声の大きさに気を付けて話す。 | |



| | |
|--------------------------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ハロピカ」から3～4m離れた場所から発表練習を行う。 ・「声のものさしカード」を見せ、声の大きさを確認する。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハロピカ（声や音に対して動いたりしゃべったりする。） ・声のものさしカード |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表する時の声の大きさになる位置にピカチュウを置く。 ・ピカチュウに反応してもらいたいの自然と声が大きくなった。 ・その後もピカチュウと声のものさしを意識することで発表の声が大きくなった。 |

小学部

中学部

| | | | |
|-----|-----------------------------------|---------------|----------|
| 教具名 | 繰り上がり足し算用学習教具 | 対象授業等 (内容) | 数学 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小3段階(ア)ウ |
| | | 太田ステージ | Ⅲ-2後期 |
| ねらい | 繰り上がりのある足し算の学習を理解することをねらいとして作成した。 | | |

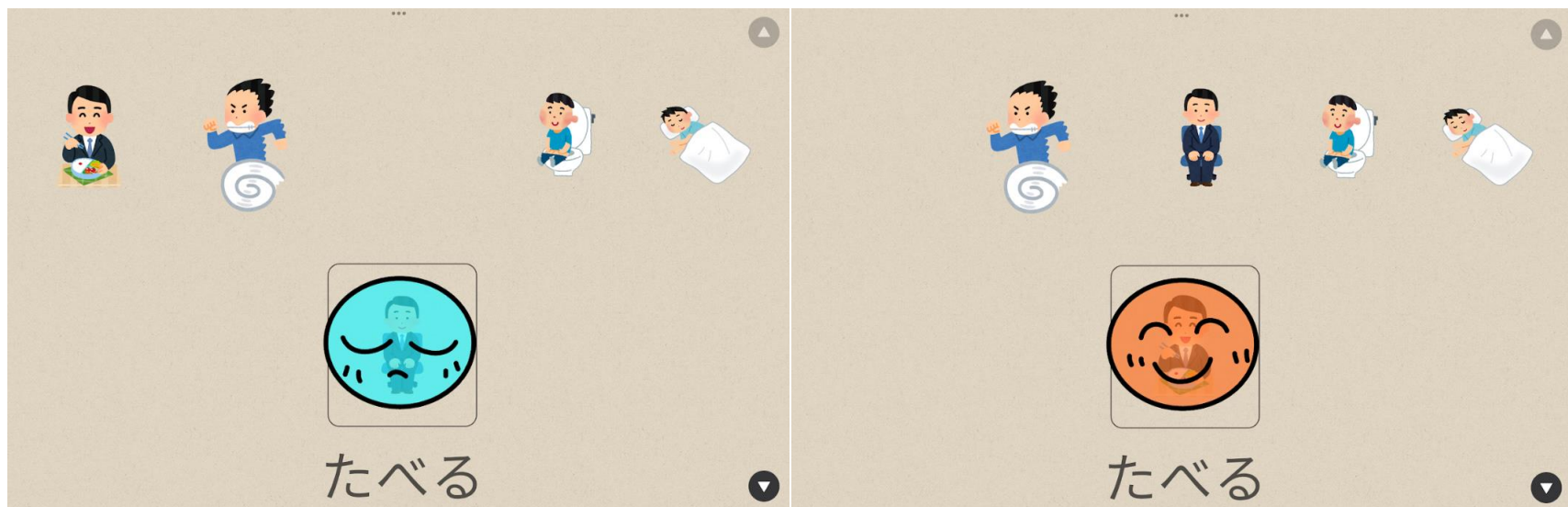


| | |
|---------|--|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ $8 + 4$ の足し算では、リングでとめてある8のカードを用意し、●カードを4つ出す。 ・ 8のカードの空欄に、●カードを2つ入れて10をつくり、残りの●カード2つと合わせて12とする。 ・ 足される数は5～9までリングでとめているカードを使い、足す数は●カードを使って計算する。 ☆足される数が5よりも小さい時は、足される数と足す数を入れ替えて計算する |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 5～9までの足されるカード ・ ●印1枚のカードを10枚 ・ 1～9数字カード各2枚ずつ |
| 工夫点及び効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人一倍不安を感じる生徒であったが、安心して取り組むことができるように教員と一緒に確認をしながら学習した。計算方法を覚えると、一人で計算することができるようになり、プリントに答えを記入することができるようになった。 |

小学部

中学部

| | | | |
|-----|------------------|---------------|-------------------|
| 教具名 | iPad版 絵カードマッチング | 対象授業等 (内容) | 国語 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小学部 2段階知識及び技能 (ウ) |
| | | 太田ステージ | Ⅲ-1 |
| ねらい | 普段使う言葉の意味が理解できる。 | | |



| | |
|---------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> 画面に書かれた言葉を教員が読み上げ、その意味表した絵カードを下の□の枠に入れてマッチングさせる。 絵カードを枠に入れた後に、タッチして正誤を確認する。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> Finger Board Pro イラスト |
| 工夫点及び効果 | <ul style="list-style-type: none"> 自分で絵カードを選んで、正誤も確認でき、操作も簡単なので遊び感覚でできる。 絵カードを変えることで、他の学習でも形式を変えずに学習できるため、生徒は抵抗感なく取り組むことができる。 |

小学部

中学部

| | | | |
|----------------------|---|-----------------------|--------------|
| 教具名 筒の抜き取り | 筒の抜き取り | 対象授業等 (内容) | 算数 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小1段 Aア (ア) ㊦ |
| | | 太田ステージ | stage1 |
| ねらい | ・筒に通された棒などを引っ張ることで、目と手の供応ができていのか確認をする。 また、目で物を捉えてそれに合わせて棒をつかんで引っ張ることができるようにする。 | | |



| | |
|--------------------------|--|
| 使用方法 | ・筒を縦や横向きに置いて筒に通した棒を抜き取る。 |
| 材料 | ・サランラップの芯（丸木材やトイレットペーパーの芯でも可） ・角材（お菓子の箱でも可） |
| 工夫点 及び 効果 | ・筒が安定するように、底に角材を使うことで安定するようにした。 ・効果としては目と手の共応に対するトレーニングになる。 ・筒を握りやすいように幅が広いリングにした。 |

小学部

中学部

| | | | |
|-----|--|---------------|------------|
| 教具名 | 数えビーズ（20までの数） | 対象授業等 （内容） | 数学 |
| | | 学習指導要領 段階 | 小3段階 A イ ㊦ |
| | | 太田ステージ | IV |
| ねらい | くり上がりのある足し算（筆算）をする際に、1桁同士の足し算をスムーズに行う。 | | |



| | |
|-----------------|---|
| 使用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆算で、位ごとに計算する際に上段・下段にそれぞれの数を左から並べる。 ・上段が10になるよう、下段からビーズを減らし上段に付加える。 |
| 材料 | <ul style="list-style-type: none"> ・トレー ・テグス ・ビーズ ・数字シール、マスキングテープ |
| 工夫点 及び 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・能力は高いが学習への意欲が低いため、本人の好みそうなかわいらしいテイストで作成した。 ・指を使ったり、頭の中で考えたりしてじっくり時間をかければできることが多いが、自信がないことで学習が滞ったり、間違ったりしてしまう。自分で確認することや、間違える事への不安を減らすことで、円滑な学習活動につながった。具体物を操作しながら繰り返し取り組んだことで、1桁同士の足し算の和（20まで）の中で記憶して取り組める場面が増えた。 |